説教余滴 2019 年 7 月 7 日『甲府の洪水』

全国的に梅雨、そんなこと当たり前、と言われそうです。そんな梅雨時でも、地方によって、時期によって降り方も違えば、恐怖も違います。7 月初旬気象庁は、生命に危険が及ぶような状況と観て、避難勧告を出しました。甲府盆地は、水害の多い土地でした。武田信玄は、天文年間（1532 年―1555 年）釜無（かまなし）川・笛吹川などに堤を構築しました。山梨県甲斐市竜王付近の釜無川東岸に典型的に残ります。それでも明治期にも大水害が起こりました。

昭和 41（1966）年、神学校 5 年生になると、夏季伝道実習があります。どこに派遣されるか楽しみであり、不安でもあります。どのような奉仕、実習活動があるか、わからないこともあり、幾つかの説教を用意して行くものだ、と教えられました。
私の実習先は、山梨県の甲府教会。メソジストの伝統を受け継ぐ教会です。甲府の駅前から 10 分ほど。その裏手に大きな教会堂がありました。お隣は山梨英和の付属幼稚園。同じ水準の土地ですが、礼拝堂は土盛をした上に建てられていました。1 メートルくらいでしょうか。階段を上って玄関に入りました。100 人以上が座れる大きなベンチ式の礼拝堂。甲府 YMCA に所属する学生や山梨英和の女学生で賑やかでした。

昭和 41 年 7 月 22 日、甲府を襲った集中豪雨はわずか 2 時間半余りの間に北部山岳地で 400 ミリを超える雨量となり、山の土砂を押し流し、市内へ流れ込みました。
死傷者 58 人、家屋全壊 25 棟、床上浸水 1486 棟。被害総額は 43 億 7 千万円。
礼拝堂の床上まで水につかりました。講壇部分は助かりました。牧師は、いち早く畳を担いでここに積み上げました。この時のお働きは見事です。いまだに忘れることができません。水が引くと、床上に残されたヘドロの排除です。英和の生徒が手伝ってくれました。そのあと、水で洗い清め、消毒。これは床下まで敷地全体に及びました。